

# 編集後記

課題解決に向けて前進し、自主的、積極的に地域社会と自然環境との共生のための活動を進めます。



環境社会報告書は、2003年に初めて発行し今回で5年目となりました。

今回も、コンセプトの「情報の正確さ」と「分かりやすさ」に心がけて制作しました。「環境の学校」が副題で社員自ら環境について学ぶ場でもあります。また、数値目標を定めてアクションに移し、その推移を追っていくという基本的な姿勢に基づいた活動だけを記載することが原則です。

この「環境社会報告書2007」は、私たちがこの5年間の自らの活動の歩みを再確認して今後の活動に役立てられるよう、「環境社会活動の歩み」のページを掲載し、この5年間の私たちの足跡と現在までの課題および今後の取り組みについて分かりやすい報告とするよう努めました。

また、環境会計の集計範囲に、今回より赤穂研究所、大津栄養製品研究所、藤井記念研究所を追加しました。そして環境効果については、生産額あたりの環境保全効果として算出をするようにしました。

2006年度における主な成果は次のとおりです。

- ！ オフィスの環境部会の稼働開始
- ” コージェネレーションシステムによるエネルギー転換
- # 「ポカリスエット」エコボトル開発による製品のリデュース
- \$ 徳島板野工場のゼロエミッション達成

今後の課題は次のとおりです。

- ！ 引き続き全社的な環境活動の質の向上と、連結対象企業の情報掲載などの環境影響範囲の拡大を進めること
- ” 地域社会とのコミュニケーションをより緊密に図っていくこと
- # 新しい技術を積極的に生かし、調達、生産、消費、廃棄まで一貫して環境影響を考慮した生産活動を行うこと
- \$ 環境活動の効果を抽出し、今後の経営に活かしていくこと

これからも、一步ずつですが課題解決に向けて前進し、自主的、積極的に地域社会と自然環境との共生のための活動を進めていきたいと考えています。

大塚製薬株式会社 環境社会委員会

## 環境省「環境報告書ガイドライン2003年度版」対比表

項目	指標	記載ページ	項目	指標	記載ページ
<b>基本的事項</b>			<b>事業活動に伴う環境負荷及びその低減に向けた取り組みの状況</b>		
1	経営責任者の緒言(総括および誓約を含む)	4,5	14	総エネルギー投入量及びその低減対策	36,37
2	報告にあたっての基本的要件(対象組織・期間・分野)	3	15	総物質投入量及びその低減対策	28,29
3	事業の概要	2	16	水資源投入量及びその低減対策	36,37
<b>事業活動における環境配慮の方針・目標・実績等の総括</b>			17	温室効果ガス等の大気への排出量及びその低減対策	36,37
4	事業活動における環境配慮の方針	2,4,5	18	化学物質の排出量・移動量及びその管理の状況	38,39
5	事業活動への環境配慮の取組に関する目標、計画及び実績等の総括	26,27	19	総製品生産量又は総商品販売量	28,29
6	事業活動のマテリアルバランス	28,29	20	廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	40,41
7	環境会計情報の総括	35	21	総排水量及びその低減対策	39
<b>環境マネジメントに関する状況</b>			22	輸送に係る環境負荷の状況及びその低減対策	31
8	環境マネジメントシステムの状況	24,25	23	グリーン購入の状況及びその推進方法	17
9	環境に配慮したサプライチェーンマネジメント等の状況	17	24	環境負荷の低減に資する商品、サービスの状況	28,29,30
10	環境に配慮した新技術の研究開発の状況	30	<b>社会的取り組みの状況</b>		
11	環境情報開示、環境コミュニケーションの状況	12,13,16	25	社会的取り組みの状況	8,12,13,14 15,16,17
12	環境に関する規制の遵守状況	8			
13	環境に関する社会貢献活動の状況	22,23			